様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４６０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３０１６

研究課題名（和文）履歴と言説の追跡による仏像彫刻の再検討－戦前期国宝指定作例を中心に－

研究課題名（英文）Reexamination of Buddhist Sculpture by Tracing History and Discourse: With a focus on examples designated as national treasures in the prewar period

研究代表者
杉崎　貴英（Sugisaki, Takahide）

帝塚山大学・文学部・教授

研究者番号：３０４６０７４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、古代から中世に成立した仏像彫刻のうち、既知の作例からケーススタディの題材を選択し、現在に至る履歴と、蓄積されてきた多様な言説について追跡をおこなった。また、彫刻分野における近代の国宝指定がどのように受けとめられ、現在に至るまでの言説にどのように作用してきたかを、記念碑を素材として考察した。それらを通じ、既知の彫刻作例の前近代における履歴、近代における文化財としての再認識の過程、国宝指定の経緯、現代に及ぶ地域社会との関わりなどの事情を含めた、仏像彫刻の生命誌的理解のための方法を模索した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
仏像の制作時点や史的前提事情ではなく、制作後の消息を対象として、いくつかの題材に関し、いかなる過程をたどってきたのか（履歴に関する問い）、その過程で作品がどのように価値づけられ、語られてきたのか（言説に関する問い）、また、仏像に関する国宝指定制度が地域社会にどのように受けとめられたかについて調査と検討をおこなった。さらにそれらが、作品をめぐる現在の理解や語りにどのように作用してきたかを考える視点と方法を模索した。

研究成果の概要（英文）：In this study, case study subjects were selected from known examples of Buddhist sculptures from the ancient and medieval periods, and the history of the sculptures up to the present day and the various discourses that have accumulated were traced. The study also examined how the modern designation of sculptures as national treasures in the field of sculptures were received and how they have affected the discourse up to the present day, using monuments as material. Through these studies, we sought a way to understand Buddhist sculptures from a biohistorical perspective, including the history of known examples of sculptures in the pre-modern period, the process of their reaffirmation as cultural assets in the modern period, the process of their designation as national treasures, and their relationship with local communities up to the present day.

研究分野：日本美術史

キーワード：古社寺保存法　文化財修理　国宝保存法　受容史　文化財の生命誌　地域史　国宝尊像石標　久留春年

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

①本研究は、古代から中世に成立した仏像彫刻のうち既知の作例を対象として、現在に至る履歴（伝世過程、環境の推移、修理等）と、現在まで蓄積されてきた多様な言説（事実の記録、伝承の語り、学術的・文化財的観点からの言及）を総合的に追跡する作業を通じ、従来の理解の深化・更新と、新たな視点提示をはかろうとするものであった。探索の展開は地域史・宗教文化史・文化財学などの諸領域にも及ぶものとなると考え、美術史学をこえた成果発信が可能となるものとして構想した。
②研究代表者は既に、いくつかの個別研究（鳥取県大山寺小金銅仏群、兵庫県達身寺木彫仏群、京都府若王寺智証大師像、仲源寺千手観音像、峰定寺釈迦如来像・阿弥陀三尊像、神護寺板彫弘法大師像、六波羅蜜寺地蔵菩薩坐像、浄土宗〔滋賀県玉桂寺旧蔵〕阿弥陀如来立像、富山県［立山博物館］銅造帝釈天立像、富山県総持寺千手観音像など）を通じ、作品が現在に至るまでにいかなる過程をたどってきたのか（履歴に関する問い）、またその過程で作品がどのように価値づけられ、語られてきたのか（言説に関する問い）という相互に関わり合う２つの問題意識にもとづくアプローチの重要性・有効性を実感してきた。また、前記した作例には昭和戦前期までに国宝に指定され、文化財保護法施行以後は国指定重要文化財となっているもの（いわゆる旧国宝）が多かったことから、戦前期における彫刻作例の国宝指定の進展と美術史学の展開との関連や、戦前から戦後に至る文化財指定の実態（断絶あるいは連続性）についての理解を獲得する必要を認識していた。さらにその獲得の手段として、列島諸地域の旧国宝作例を対象とする通覧的考察と、ケーススタディ実践の必要性を痛感してきた。

２．研究の目的

古代から中世に成立した仏像彫刻に関し、現在に至るまでの履歴（来歴・伝来）を追跡すること、現在までに蓄積されてきた多様な言説（事実の記録や伝承の語りのみならず、学術的・文化財的観点からの言及、文化財指定や定説的理解に至る経緯、地域社会における意味づけ・価値づけなど）を追跡することに、探索の力点をおく。
　それにより、既知の彫刻作例の前近代における履歴、近代における文化財としての再認識の過程や国宝指定の経緯、地域社会との関わりの推移といった事情がおりなす「生命誌」を総体的にとらえることを目的とする。
対象は古社寺保存法・国宝保存法の時代に国宝に指定され、戦後の文化財保護法施行にともない国指定重要文化財となり現在に至っている作例（いわゆる旧国宝）に比重をかける。また、国宝指定が所蔵者あるいは地域社会にどのように受けとめられ、当時さらには現在に至るまでの認識や語りにどのように作用してきたかという問題に関する調査研究も目的となる。

３．研究の方法

①基礎的・総覧的作業として、まず近代における国宝指定彫刻作例に関するデータベースの作成をおこなう。
②寺院あるいは地域において、尊像に対する国宝指定がどのように受けとめられたかを考えるための諸資料（出版物〔略縁起・絵葉書を含む〕の書誌、記念碑〔国宝尊像石標と仮称〕の存在等）に関する情報収集をおこなう。
②いわゆる旧国宝の作例からケーススタディの対象を選択し、前記の視点のもとで履歴と言説の追跡をおこなう。
③戦後の文化財保護法施行を承けて成立した自治体の文化財保護条例による早い時期の指定物件からケーススタディの対象を選択し、前記の視点のもとで履歴と言説の追跡をおこなう。
④研究の過程で把握の必要が浮上した関係人物について、その事績の探索をおこなう。
⑤研究の過程で調査の機会を得た作例に関して、本研究の視点・方法の適用をおこなう。

４．研究成果

最終年度までに発表に至った成果から、（１）全国ないし地域を範囲とするもの、（２）個別作例に関するもの、（３）関係人物の事績研究、（４）展示ないし関連催事における成果発表、（５）関連研究に区分して記す。

（１）全国ないし地域を範囲とするもの

①仮称「国宝尊像石標」に関して：国宝尊像石標（仮称。「国宝」に指定された彫像の所在を銘記した石製の標柱／記念碑）について、2020 年度から所在調査を本格化した。現地訪問が大いに制約された状況下、まず Google ストリートビューなどを利用したオンライン調査を試み、全国に 130 余基の存在と主要銘文を把握し基礎的データベースを構築した。それを踏まえ、現地調査をなしえた。国宝尊像石標とその銘文は、近代の国宝指定が地域にどのように受けとめられたかを考える上で好適な素材となりうることを確認できた。こうした成果をふまえ、全国所在一覧稿の提示を兼ねた総説を 2022 年度末に発表した（『日本文化史研究』第 53 号）。その後、新たに数基の存在を現地訪問および示教により把握することができた。最終年度の末に、それを含むかたちで学内の公開講座における一般向けの講述をおこなった。
②石川県奥能登地域に関して：地域の歴史系博物館による調査への同行にともなう調査報告において、奥能登地域所在作例に関する近世の言説と再認識の過程についての把握を論述した（『石川県立歴史博物館紀要』第 31 号）。
③富山県域に関して：県外に所在する聖教奥書中に越中の中世寺院に関する記載を新たに見出し、古代・中世の仏像の原所在および履歴と言説の考察に適用した（『富山史壇』第 194 号）。

（２）個別作例に関する調査研究
①石位寺（桜井市忍阪）の三尊石仏（石造浮彫伝薬師三尊像）に関して：白鳳期造立の日本最古級の石仏として知られる作品について、近現代における履歴と言説を追跡する作業をおこなった。まず再認識の始まりの様相と国宝指定に至る状況をあとづけるとともに、従来看過されていた初期の研究を再評価する論考を発表した（『奈良学研究』第 24 号）。また学内の公開講座において、近現代を通じての再認識過程と諸言説（鹿深臣将来弥勒石仏説・額田王念持仏説等）の形成・流布に関し、学内の公開講座において一般向けの講述をおこなった。再認識と言説史の把握を意図した年表兼文献目録は、研究期間を通じて随時増補をはかり、最終年度の末に公刊した（『帝塚山大学文学部紀要』第 44 号）。
②妙高寺（新潟県小千谷市）の愛染明王坐像に関して：鎌倉時代の入念の作に関し、『日本国宝全集』解説が記す「伊豆国田中」の地から伝来したという言説を検討した。その原形は六十六部縁起としての頼朝坊廻国伝説を受容した縁起的言説であることを明らかにし、そこには六十六部聖の場であった蔵王堂（長岡市、現・金峯神社）が関係する可能性を指摘した（『日本文化史研究』第 52 号）。なお本例に関しても国宝尊像石標（1935 年建立）が妙高寺近隣に存し、現代への持続を含め、「国宝」制度受容に関しても興味深い事例として認識された。
③神宮寺（大阪府高槻市）の諸像に関して：中世荘園・田能荘の故地にある同寺の大日如来坐像（11～12 世紀）・聖観音立像（9 世紀）が、戦後の中世社会史研究では同地の樫船神社棟札銘を根拠に貞応 2 年（1223）作と解されてきた問題を指摘し、文献史学における棟札銘の解釈と理解形成の過程を批判的に検討、両像の履歴を確認するとともに、棟札銘との関係を否定し新たな解釈を提示、あわせて田能荘における造像史を再構築した（『文化史学』第 75 号）。
④西光寺（石川県金沢市）の銅造菩薩立像に関して：研究代表者が近時、鳥取県大山寺小金銅仏群のうちの一躯との酷似関係を指摘していた 7 世紀の小金銅仏について、2019 年になされた不正確・不本意な報道およびその後の諸言説に対し、明治期国宝指定以前からの大山寺像の履歴を再論するとともに理解のための留意点を論述した（『石川考古学研究会々誌』第 63 号）。
⑤大谷寺（福井県越前町）の越知山三所権現本地仏像に関して：白山信仰に関わる院政期の重要作例の実査をふまえて、履歴と言説および再認識に関わる把握を併せた調査報告をまとめた（『越前町織田文化歴史館研究紀要』第 8 集）。

（３）関係人物の事績研究
　前記の石位寺三尊石仏に関する探索の過程で、戦前期における発言者の一人として久留春年（1881?～1936）の名を知るに及んだ。久留は明治期に日本画家として出発し、日本美術院第二部の創立時に「画工」として所属、いわゆる国宝修理に携わった人物の一人であるが、ほとんど忘れられた存在となっており、略歴の把握からの探索を要する状況にあった。事績の把握を進める過程で、『正倉院式文様集』『古代芸術拓本稀観』を編むなど古代美術に精通した久留が、法隆寺天蓋天人像・法輪寺諸像・室生寺十一面観音立像等の光背補作に従事した可能性、それに関し明治期国宝修理の所為が現代における作品認識に作用している問題に想到した（『奈良学研究』第 22 号）。その後も調査と資料収集を進め、一部は researchmap の研究代表者個人ページにおける研究ブログや刊行物（『大学通信帝塚山』第 50 号）により共有化をはかった。さらに研究期間の最終年度にあたり、久留の人物像と事績に関してその後に得られた理解をまとめた（『奈良学研究』第 25 号）。

（４）展示ないし関連催事における成果発表
①帝塚山大学附属博物館における企画展示「木津川をめぐる神と仏―井手・城陽の調査から―」（2020 年 10～11 月）、および城陽市歴史民俗資料館「神のすがた・仏のかたち―城陽・井手を中心に―」展（2021 年 10～12 月）に参画し、両者の展示・図録及び会期中の講座において、南山城地域所在の彫刻作例および仏師快慶（？～1227 以前）の研究史に関し、本研究の一環で得た新たな理解を反映した。
③帝塚山大学附属博物館を会場に、単独で構想・担当した企画展示「古代美探求－奈良の近代 ま

なざしといとなみの諸相－」（2023 年 2 月 24 日～3 月 18 日）を開催した。前記の久留春年に関わる資料を始め、本学所蔵の伊藤黄（生没年・人物像未詳）の挿絵入自筆本『法隆寺天蓋仏の研究』（1946 年）など本研究課題に関して新たに把握した資料数点を含む展示を構成し、一般公開に供した。あわせて展示内容を解説するリーフレットを作成し来場者に配布した。

（５）その他の関連研究
以下は仏像を主題とする内容ではないが、本研究の意図する方法を適用した成果となった。
①白山宮（富山県南砺市）紙本著色白山本迹曼荼羅図に関して：資料紹介（『富山史壇』第 191 号）において、図様と白山信仰における諸言説との関係、長瀧寺（岐阜県郡上市）真如坊（廃絶）における相承とその後の履歴を詳解した。また、公刊の前後に口頭発表（日本宗教文化史学会例会・白山文化研究会）あるいは講述（岐阜県博物館公開講座）の機会を得た。
②全昌寺（岐阜県大垣市）紙本墨画十八羅漢図に関して：寺院所蔵遺品とその伝称作者名のなりたちを地域的状況のなかで検討した（『岐阜県博物館調査研究報告』第 42 号）。

本研究に関しては、初年度末に始まったコロナ禍による行動制限および本務における諸業務の増大にともない、研究期間の大半にわたりさまざまな制約を被ったこと、それにともない当初計画の縮小・変更が少なからずあったことを記しておかねばならない。研究期間を１年延長した一因もそこにある。なお最終年度の末に新たな研究課題「仏像作例をめぐる再認識と理解形成の追跡－郷土史／在野研究／仏教考古学に注目して－」（基盤研究(C)）が採択の運びとなった。本研究課題を遂行する過程で構想に至ったものであるため、研究成果に関して書き添えておく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　7件）

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 39･40
２．論文標題 「小金銅仏の調査研究史をめぐる覚書」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『大境』〈特集：越中の小金銅仏－鉄仏・懸仏を含む富山県所在・所縁遺品の調査報告－〉	６．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 24
２．論文標題 「石位寺三尊石仏の近代－再認識の始まり・国宝指定・戦前の研究－」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『奈良学研究』	６．最初と最後の頁 81-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 53
２．論文標題 「国宝尊像石標雑考－全国所在一覧稿の提示とあわせて－」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『日本文化史研究』	６．最初と最後の頁 125-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英・南本有紀	４．巻 42
２．論文標題 「大垣市全昌寺所蔵絵画について」	５．発行年 2022年
３．雑誌名 『岐阜県博物館調査研究報告』	６．最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 7
2．論文標題 「越前町天谷・神明神社の彫像」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『越前町織田文化歴史館研究紀要』	6．最初と最後の頁 76-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 50
2．論文標題 「久留春年筆 鳥毛立女屏風模写下絵」〈所蔵品紹介〉	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『大学通信帝塚山』	6．最初と最後の頁 20-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 53
2．論文標題 「新潟・妙高寺愛染明王像の「伊豆国田中」伝来説小考」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『日本文化史研究』	6．最初と最後の頁 61-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 194
2．論文標題 「富山県外所在の聖教奥書にみえる越中の中世寺院三題－大浦保福円寺・大袋庄高寺之御作堂・般若野卜野談義所－」	5．発行年 2021年
3．雑誌名 『富山史壇』	6．最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 75
2．論文標題 「丹波国田能荘の御正体／本地仏史料再考－高槻市樫船神社棟札銘と神宮寺諸像との関係をめぐって－」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『文化史学』	6．最初と最後の頁 17-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 22
2．論文標題 「久留春年探索序章」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『奈良学研究』	6．最初と最後の頁 67-92p
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 191
2．論文標題 「五箇山より新出の白山曼荼羅－南砺市白山宮本《白山本迹曼荼羅図》の概要と若干の考察－」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『富山史壇』	6．最初と最後の頁 16-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 63
2．論文標題 「金沢市西光寺銅造菩薩立像の調査研究と理解のために－その基本的留意点（中間報告に代えて）－」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『石川考古学研究会々誌』	6．最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岡本篤志・杉崎貴英	４．巻 63
２．論文標題 「「三次元計測技術を用いた金銅兄弟仏の調査研究」発表要旨と補説」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『石川考古学研究会々誌』	６．最初と最後の頁 69-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 5
２．論文標題 「越前町の不動明王彫像について」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 『越前町織田文化歴史館研究紀要』	６．最初と最後の頁 90-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 44
２．論文標題 「石位寺三尊石仏に関する年表と文献目録稿－近現代における再認識と言説史の把握のために－」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『帝塚山大学文学部紀要』	６．最初と最後の頁 19-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 54
２．論文標題 「近世末期の空也堂・空也聖に関する一資料」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『日本文化史研究』	６．最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 34
2．論文標題 「造形からみる日本の神仏習合」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『第34回 濱田青陵賞授賞式 岸和田市文化賞』	6．最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 31
2．論文標題 「奥能登地域仏像調査報告－明泉寺・岩倉寺・粉川寺・重蔵神社－」	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『石川県立歴史博物館紀要』	6．最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 199
2．論文標題 「富山県下の古彫刻に関する再認識抄史と課題－昭和三十～四十年代前後の活況に注視しつつ－」〈研究動向と今後の課題〉	5．発行年 2022年
3．雑誌名 『富山史壇』	6．最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 杉崎貴英	4．巻 25
2．論文標題 「久留春年探索拾穂」	5．発行年 2023年
3．雑誌名 『奈良学研究』	6．最初と最後の頁 71-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉崎貴英	４．巻 8
２．論文標題 「大谷寺の越知山三所権現本地仏像」	５．発行年 2023年
３．雑誌名 『越前町織田文化歴史館研究紀要	６．最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 杉崎貴英
２．発表標題 「晩年期の快慶」
３．学会等名 第91回 文化財講演会（於：文化パルク城陽）2021年12月11日　城陽市歴史民俗資料館（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 杉崎貴英
２．発表標題 「石位寺三尊石仏の近現代」
３．学会等名 奈良学への招待ＸＸ（オンデマンド型のネット配信）2022年2月18日 - 3月18日　帝塚山大学奈良学総合文化研究所（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 杉崎貴英
２．発表標題 「五箇山より新出の白山曼荼羅－その概要と伝来－」
３．学会等名 白山文化研究会（勝山市教育委員会主催、於：白山平泉寺歴史探遊館まほろば）（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「南山城の仏教美術への視点－「木津川をめぐる神と仏」展にちなんで－」

３．学会等名
第443回 市民大学講座（帝塚山大学考古学研究所主催、Zoomによるリモート方式）

４．発表年
2020年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「長谷寺の十一面観音をめぐって－誕生と再生、神と仏－」

３．学会等名
奈良シニア大学　一般教養講座（一般社団法人日本コミュニティカレッジ主催、於：ミグランス(橿原市役所分庁舎)）

４．発表年
2020年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「新出の白山本迹曼荼羅－南砺市白山宮蔵（美濃国長滝寺真如坊旧在）本について－」

３．学会等名
日本宗教文化史学会2019年度第1回例会（於：京都女子大学）2019年9月28日

４．発表年
2019年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「白山信仰のひろがりと造形文化－飛騨・美濃そして越中－」

３．学会等名
博物館学芸講座 第7回（於：岐阜県博物館けんぱくホール） 2019年11月23日 岐阜県博物館（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「室生寺の近代、ふたつの名作の誕生－国宝十一面観音像の光背と、小川晴暘撮影『室生寺大観』と－」

３．学会等名
名品・名作誕生XVII 第1回（於：帝塚山大学東生駒キャンパス）2020年2月15日 帝塚山大学奈良学総合文化研究所

４．発表年
2019年

１．発表者名
岡本篤志・杉崎貴英

２．発表標題
「三次元計測技術を用いた金銅兄弟仏の調査研究」（ポスター発表）

３．学会等名
文化財保存修復学会第41回大会（於：帝京大学八王子キャンパス）2019年6月22日

４．発表年
2019年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「神仏習合を日本彫刻史にみる ―越前町八坂神社十一面女神坐像をめぐって―」

３．学会等名
第31回 鷹陵史学会 公開講演会「神仏習合を問い直す」 2022年9月24日 鷹陵史学会（招待講演）

４．発表年
2022年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「造形からみる日本の神仏習合」

３．学会等名
第34回 濱田青陵賞授賞式・記念シンポジウム「神仏習合を考える―なりたちとひろがり―」 2022年9月25日 岸和田市・岸和田市教育委員会・朝日新聞社（招待講演）

４．発表年
2022年

１．発表者名
杉崎貴英

２．発表標題
「村里のほとけ、国宝となる－仮称「国宝尊像石標」全国130余基の誕生と周辺－」

３．学会等名
名品・名作誕生XVIII 第4回（於：帝塚山大学東生駒キャンパス） 2023年3月18日 帝塚山大学奈良学総合文化研究所

４．発表年
2023年

〔図書〕 計4件

１．著者名 帝塚山大学附属博物館・城陽市歴史民俗資料館編	４．発行年 2021年
２．出版社 城陽市歴史民俗資料館	５．総ページ数 17
３．書名 『神のすがた・仏のかたち－城陽・井手を中心に－』〈Joyoエコミュージアム令和3年度秋季特別展〉	

１．著者名 帝塚山大学附属博物館編	４．発行年 2020年
２．出版社 帝塚山大学附属博物館	５．総ページ数 24
３．書名 『木津川をめぐる神と仏－井手・城陽の調査から－』展図録	

１．著者名 帝塚山大学附属博物館編	４．発行年 2021年
２．出版社 帝塚山大学附属博物館	５．総ページ数 8
３．書名 『「木津川をめぐる神と仏－井手・城陽の調査から－」展示記録集』	

1．著者名 狭川真一さん還暦記念会編	4．発行年 2019年
2．出版社 狭川真一さん還暦記念会	5．総ページ数 767
3．書名 『論集　葬送・墓・石塔　狭川真一さん還暦記念論文集』（杉崎貴英「中世の宗教彫像における骨・身片の像内納入をめぐって」pp.31-40）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関